第１回青森市上下水道経営ビジョン検討会議　会議概要

開催日時　令和８年７月 22 日（水）10：00～11：00

開催場所　水道部本庁舎　３階　大会議室

出 席 者　佐々木淳一委員、池田享誉委員、雪森正三委員、葛西一正委員

欠 席 者　一戸善正委員

事 務 局　舘山管理者、舘山部長、森田次長、川上次長
経営企画課　高野課長、盛主幹、西田主査、雪森主任、関係各課長等

会議次第

1　開会
2　挨拶　青森市公営企業管理者
3　委員紹介
4　意見交換
　青森市上下水道経営ビジョン策定に向けた進め方について
5　その他
6　閉会

【議事概要】

■意見交換

事務局から配付資料について説明。

＜意見・質疑応答＞

①青森市上下水道経営ビジョン検討会議の背景について

○池田委員

資料左下　料金・使用料収入の減少について、水道料金は人口減少に伴い、H26:56.5 億円→R1:54.2 億円に減少しているが、下水道料金は H26：39.3 億円→R1：40.1 億円と増加しているのはなぜか。

●事務局

水道は普及率が高いため、人口減少がそのまま料金減少に影響するが、下水は全域に普及していないため、新たに普及した分で料金増加となったことが要因のひとつとして考えられる。

○池田委員

今後の資料作成にあたっては上下でグラフの目盛等合わせたほうが比較しやすい。

○佐々木委員

広告収入とはなにを考えているのか。また人口減少で収入が落ち込んでいるが、今後どのように考えているのか。

●事務局

他自治体のようにペットボトル水の作成について検討しているが、製造コストが高くなることが判明し、どうすればコストを抑えられるか検討中。

水道だよりへの企業広告の掲載や、ふるさと納税制度を活用した寄附などによる収入確保策について今後検討していきたいと考えている。

人口減少が加速する中、今後どのように事業を運営していくか、いかにコストを抑え、収

入を増やすか、委員から意見をいただきながら検討していきたい。

●事務局
市内でも八潮市のような大きな事故が起こる可能性があるかという点について、市内に八潮市のように地下深くに大きい下水管がないため、ここまでの事故はないと考えている。一方、水道管の漏水は毎月あるので、順次更新していく。

○雪森委員
国で長期の上下水道の計画は作っているのか。
●事務局
国土強靭化計画に水道の耐震化などが盛り込まれているが、上下水道個別のものはない。ただし、能登半島地震や八潮市の事故を受け、上下水道の複線化などリダンダンシーの確保等について国で促進しているようではあるが、あまり予算はついていない状況。

○雪森委員
その予算の 10 年計画などはないか。あるのであればビジョンに反映させられるのではないか。
●事務局
今般の下水道法改正により国の関与が強くなったようであるが、国の経費負担について明記はされていない。事故等あれば国からの要請などあるが、経費負担は補償されていないため、市長会などで要請していきたい。ただし、老朽化は進んでいるので、優先順位をつけて対応していく。

○葛西委員
解体処分して売却しようとしている施設は今もランニングコストが掛かっているのか。
●事務局
草刈りのほか学校が近くにあるため安全確保などの経費が掛かっている。老朽している施設なので、解体し更地にして売却したいと考えている。

<u>②青森市の水道事業について</u>
○葛西委員
トピックスの数値は他都市と比べてどうなのか。
●事務局
施設利用率は他団体では 60%くらいに対し、青森市は 50%程でここ数年推移しているが、他団体と比べ人口減少率や配水量の減少率が大きくなっていることが要因と思われる。
1 日 1 人あたりの使用料は全国平均約 230L なので、青森市の 260Ｌは高い水準にあるが、節水意識の高まりなどで減少傾向にある。

<u>③青森市の下水道事業について</u>
●事務局
下水道の施設利用率は、他団体と同様に 65%程でここ数年推移している。

<u>④青森市水道経営プランについて</u>
○池田委員
収入予測は人口減少予測を使用していると思うが、実績が予測を上回っている。前回予測はどのように人口減少予測をしているのか。また、Ｒ７収入の実績はもう出ているのか。
●事務局
市の総合計画の人口減少予測に合わせて収入予測を立てている。Ｒ７実績については次回

の会議でお示しする予定となっている。

○雪森委員
　経営戦略の目標値は達成しているのか。
●事務局
　達成する見込みである。

⑤青森市下水道経営戦略について
●事務局
　下水道における目標値のうち、企業債残高対事業費規模比率が 1000％を超えているが、昨年が企業債償還のピークで今後減少するため、経営戦略の計画年度中には目標を達成する見込み。その他の目標値は達成済み。

○葛西委員
　経常収支比率、資金不足比率は年度ごとの目標値、企業債残高対事業費規模比率は戦略の計画期間の 20 年後の目標値という理解でよいか。
●事務局
お見込みのとおり。

○池田委員
　水道、下水道それぞれプラン・戦略があり、違うものとは理解しているが、資料として揃えられるものは揃えたほうがよい。例えば下水の料金予測もあれば、水道と比較し、均衡がとれているか、問題点はないかなどを確認することができる。

⑥今後のスケジュールについて
○池田委員
　次回会議案件の類似団体、参考都市はどういう団体を想定しているのか。
●事務局
　事業規模別の類似団体でお示しする。

○雪森委員
　ビジョン案作成後はどのような流れになるのか。議決等必要となるのか。
●事務局
　法的な規定はないが、令和 10 年 3 月に常任委員会において議会へ報告をする予定。その後、ビジョンの下位に位置づける事業戦略を作成し、主要な事業等を定めていく。

全体について
○佐々木委員
　八重田浄化センターの老朽化が進んでいるが、今後どうするのか。
●事務局
　50 年以上たっているので、今後どのように見直すか検討中。

○雪森委員
　ビジョンの計画期間が 12 年なのはなぜか。
●事務局
　計画により設定期間はさまざまであるが、今回の上下水道経営ビジョンでは下位の事業戦略を 3 年ごとに見直すことを想定し、それを 4 回分として 12 年と設定している。